

「ISSC meeting 6th in New Zealand」に参加しました



6/2~3の日程で行われた、「ISSC meeting 6th in New Zealand」に参加してきました。ISSCはInternational Society for Social Capital Researchの略で、昨今話題のソーシャルキャピタル研究者の集いです。ハーバード大学のIchiro Kawachi教授を中心に、第1回は2009年6月にボストンで開催され、今回は第6回目を迎えました。

オークランド大学で行われた第1日目のシンポジウムでは、はじめにProf. Ichiro Kawachiの基調講演がありました。続いて、オークランド大学のスピーカーが数名、昨今のニューージーランドでの肥満の問題などを報告しました。日本から参加のJAGES代表近藤克則先生（千葉大）はJAGESプロジェクトについて、2013データの発表をしました。

第2日目はオークランドから船で40分ほど離れたワイヘケ島で行われました。第2日目はclosed meetingとしてISSCメンバーだけで行われ、それぞれの研究進捗を報告し合いました。ほぼ全ての演題がSocial capital (SC)と関連する研究（会の性質上当然ですが）で、それぞれ幅があり実りのある議論ができました。私は新潟市のJAGES2013データを用いて、都市と農村のSCの違い、地域レベルのSCが健康行動（今回は歩行時間）に影響を及ぼしている、という発表を行いました。いくつか弱点や論理の組み立て方についての意見をもらうことができ、刺激になりました。今後、論文化に向けて頑張っていきたいと思います。

今回、ISSC 6th meetingに参加させていただき、ソーシャルキャピタルの研究はまだまだこれからの分野があると思いました。健康日本21に謳われて一気に注目度が上がっていますが、まだまだ本格的な研究はこれからであることを感じました。特に、ソーシャルキャピタルは人の健康にポジティブに働くことははっきりしてきましたが、どうしたら豊かなソーシャルキャピタルを築いていくことができるか、については、これから実証研究がなされていかなければならないと感じました。

今回の学会参加にあたり、お世話になった先生方、皆様、大変ありがとうございました。今回得た知識やモチベーションを今後の研究に生かして参りたいと思います。